

武蔵野



武蔵野支局 〒180-0006
武蔵野市中町1の13の1 3F
電話 0422(51)3131
FAX 0422(51)3133
musasino@yomiuri.co.jp
都内版編集室

江東支局 電話03(3631)6116
立川支局 電話042(523)4477
ホームページ
www.yomiuri.co.jp/local/

購読は
Y 0120-4343-81

【広告】読売Palette 03(6272)9027
【折込チラシ】 0120-03-4343
【読売旅行】 03(5550)0666

12月12日(日曜日)
旧 11月9日<<先勝>>



■ あすの暦
通日 346
月齢 7.8
(正午)

日出 6.41
日入 16.28
月出 12.45
月入 —
—東京標準—
満潮 12.04
干潮 4.55
—(小潮)

文人の 武蔵野

小谷忠典監督(1977年)の最新作映画「たまらん坂」(武蔵野文学館製作)が、英国のセント・アンドルーズ映画祭(11月22〜28日)コンペティション部門にて最優秀撮影賞を受賞しました。そこで今回は、文学と映画を通じて描かれた武蔵野について紹介したいと思います。

本作は、「武蔵野短篇」のひとつとして発表された黒井千次さん(1932年〜)の

「たまらん坂」世界へ

① 黒井千次と小谷忠典

小説「たまらん坂」を原作とする映画です。原作では、国立市と国分寺市と府中市を通る「多摩蘭坂」を登って家に帰る男の物語が描かれますが、映画では、その原作を読んだ女子大生の物語が武蔵野で展開されます。

映画「たまらん坂」は、2019年7月、フランスのマル



小谷忠典監督の映画「たまらん坂」では、黒井千次さんの自筆原稿も登場する(映画「たまらん坂」から)

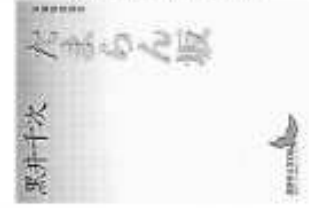
セイユ国際映画祭でワールドプレミア上映、コロナ禍の20年に入選したドイツの日本映画祭とシンガポールの国際芸術祭でも招待上映されていますので、今回の英国で4回目の海外上映になります。昨年の「TAMA CINEMA FORUM」など日本国内の映画祭でも招待上映されてきた一方で、一般によく知られるTOKYOのイメージとはかけ離れた武蔵野(谷保)の風景と物語が、海外各地に届けられていることをまずはお知らせしたいと思います。遡ること6年、15年6月14日が始まりでした。「玉川上水と文学」と題されたフォーラムが田無であり、そこで私は黒井さんと一緒に講演する機会に恵まれました。会場の西東京市民会館(閉館)では、

おすすめの本

「たまらん坂 武蔵野短篇集」(黒井千次)

本作の「武蔵野」は、国立、国分寺、小金井、東大和あたりのエリアです。「たまらん坂」「おたかの道」「せんげん山」「そろう泉園」「のびどめ用水」「けやき通り」「たかはた不動」。カッコイイとは言えないその響きを強調するようにはひらがなで表記されたこれらの地名が、そのまま7編の短編小説のタイトルになって収められています。

小谷監督が撮影されていました。その帰り道、小谷監督と私は、黒井さんの小説を原作にした武蔵野の映画を製作することを決めたのでした。
(武蔵野大教授・むさし野文学館館長・土屋忍)



(講談社文芸文庫)